Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-10-19

地域連携協議会に向けての論点整理と課題

木村，修二

(Citation)
歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集,15:5-5

(Issue Date)
2017-01-29

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009727

地域連携協議会に向けての論点整理と課題

神戸大学大学院人文学研究科特命講師　木村修二

１．重層・複合する〈場〉
＊空間としての〈場〉＝「所」
施設：公立社会教育施設（公民館（生涯学習センター）・図書館・博物館 etc.）
→非営利活動への利用提供（貸室）
住民団体集会施設（「公民館」、公会堂 etc.）→寄り合い・祭礼
民間教育事業者（カルチャーセンター）
地域連携センターと関係のある施設
玉置家住宅（三木市）、みき歴史資料館（今年度初めにオープン）、生野書院、尼崎市立地域研究史料館、棚原公民館、氷上公民館、明石市立文化博物館、福崎町立柳田國男・松岡家記念館、神戸市文書館、住吉歴史資料館、小野市立好古館、香寺町犬飼公民館、神戸深江生活文化史料館
＊人々のつながりとしての〈場〉＝「庭」
地域的コミュニティ＝共同体：自治会・財産区管理会
特定の活動を目的とするグループ（テーマ・コミュニティ）：同好会
＊大学の立場
「教育」＝人材育成の〈場〉
「研究」＝知の「開発」と蓄積
「実践（臨床）」＝マンパワー（人材の供給）
※地域連携事業；人文系としての「実践」の場／「よそもの」／コネクション；協議会～『LINK』

２．〈場〉と「地域歴史遺産」
＊新たな「地域歴史遺産」の創出；モノから「地域歴史遺産」へ
＊〈場〉の経験の中から生みだされる新たな〈場〉

３．活動の持続
＊「成功」と「失敗（つまづき）」
どの（「成功」に見える）ケースにおいても「失敗（つまづき）」を過程に含むのではないか？
→地元熱の低下→リーダーの不在・食傷（マンネリ・飽き）☞活動の停滞
＊寛容と分担
コーディネーター的存在の要件→誰でも受け入れる≠排除／活動内容の分担
ベテランとニューフェースの融合→若年層の取込への努力☞課題としての世代交代
専門家と一般市民のコミュニケーション（双方向）の必要性

４．討論への課題
①空間としての〈場〉と人々のつながりとしての〈場〉は、いかにして結びつけられるか？
②地域と大学（研究者＝科学者）が連携しうる〈場〉とは？
③いかにすれば歴史文化をめぐる地域活動が持続性を獲得できるのか?
☞「地域歴史遺産」の保全へ向けた条件